

eitoeiko より展覧会のご案内です。

水族館劇場の向こうがわ
岡本光博、千葉大二郎
12/4(土)~12/25(土)

「日本文化をめぐる4つの展覧会」最終回

日頃より大変お世話になっております。12月4日から12月25日に開催する最終回、第4回展は「水族館劇場の向こうがわ」と題し、野外演劇集団・水族館劇場の活動を現代美術の側面からとらえ、芸術と社会運動について考察します。

NHK「ハートネットTV」でも紹介された2021年東京・羽村市での水族館劇場公演「Naked アントロポセンの空舟」に出演した千葉大二郎と、2017年横浜市寿町で開催のヨコハマトリエンナーレ関連企画、アウトオブトリエンナーレ「盗賊たちのるなばあく」で水族館劇場と協働した岡本光博の作品を中心に、キュレーターの居原田遥、東京藝術大学教授・社会学者毛利嘉孝を迎え、リレーショナルアートとしての藝能を考えます。そして会期中最終日には、会場内での公演を開催いたします。

展覧会について

本展では水族館劇場という社会運動体を、絶え間なく流れる川の水のようにつづく現象としてとらえます。モノからコトへと価値感が変動していくなか、レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉にあるように、一瞬で過ぎ去る過去と、つぎには新しい現在があらわれる時の流れに寄り添い、かつ抗う術を探ります。水にまつわる作品として、岡本光博は劇団との関わりのある「モレシヤン」、「ドザえもん」シリーズの立体作品を、千葉大二郎は「水族館劇画」を発表します。

さすらい姉妹「のざらし姫」公演

会場：eitoeiko(同展示ギャラリー内にて)

日時：12/25(土) 18時30分より

料金：投げ銭

戯作：桃山邑 工作：毛利嘉孝

出演：千代次 松林彩 藤井七星 セツ森左門 臼井星絢 秋浜立

会期最終日に水族館劇場が舞台なしで芝居を興行する「さすらい姉妹」として登場。会場にて公演します。

戦国時代から近世への転換期、何処からともなくあらわれた、のざらし姫の落花狼藉。

出展作家

岡本光博

1968年京都生まれ。1994年滋賀大学大学院修了。1995年アート・スチューデントズ・リーグ・オブ・ニューヨークに在籍。その後ドイツ、スペインなど世界各地のアーティスト・イン・レジデンスに参加。主な参加展にセレブレーション(スターリ・ブローヴァル ポーランド、ロームシアター京都 2019)、美少女の美術史(北師美術館 台湾 2019)、あいちトリエンナーレ表現の不自由展・その後(2019)、来るべき世界:科学技術とAI、人間性(青山学院大学 2019)、天覧美術(KUNST ARZT, eitoeiko 2020)、桜を見る会(eitoeiko 2020)、オキナワ・ステーキ(個展 eitoeiko 2021)、MUNI(個展 HOLE IN THE WALL 2021)ほか多数。

千葉大二郎

1992年奄美大島生まれ。2016年東京藝術大学大学院修了。アートユニット「硬軟」としてパフォーマンスを中心に多岐にわたるメディアで活動する傍ら、千葉名義で平面作品を中心に手掛ける。近年の主な参加展覧会にMETA real 日本画のワイルドカード(神奈川県民ホールギャラリー 2019)、絵画たらしめる(アキバタマビ 21 2019)、期待される人間像(個展 eitoeiko 2019)、Hassuism(個展 eitoeiko 2020)、映えることができない(東京都美術館 2021)など。水族館劇場には役者として出演。

協力

居原田遥

キュレーター。1991年沖縄生まれ。2015年東京藝術大学大学院修了。東京藝術大学とASEAN諸国の連携プログラムを担当する。

毛利嘉孝
東京藝術大学大学院教授(社会学)。

水族館劇場
1987年結成。主宰桃山邑。

出品作品紹介



岡本光博
モレタン MoreTANK
「汚染水タンク」プラモデル、水葵の種、醍醐水、
ガラスボックス、津波ピクトグラム
2021



千葉大二郎
「水族館劇画」より
2021

展覧会情報

展覧会タイトル: 水族館劇場の向こう側
出展作家: 岡本光博、千葉大二郎
協力: 居原田遥、毛利嘉孝、水族館劇場
会期: 12月4日(土)~12月25日(土)
開廊時間: 12時~19時
休廊日: 毎週日、月
関連イベント: さすらい姉妹「のざらし姫」公演 12/25(土)18時30分より 料金投げ銭

会場名: eitoeiko(エイトエイコ)
住所: 〒162-0805 東京都新宿区矢来町 32-2
連絡先: 03-6873-3830
ウェブサイト: www.eitoeiko.com
担当: 癸生川 ei@eitoeiko.com